

推進会議の取組

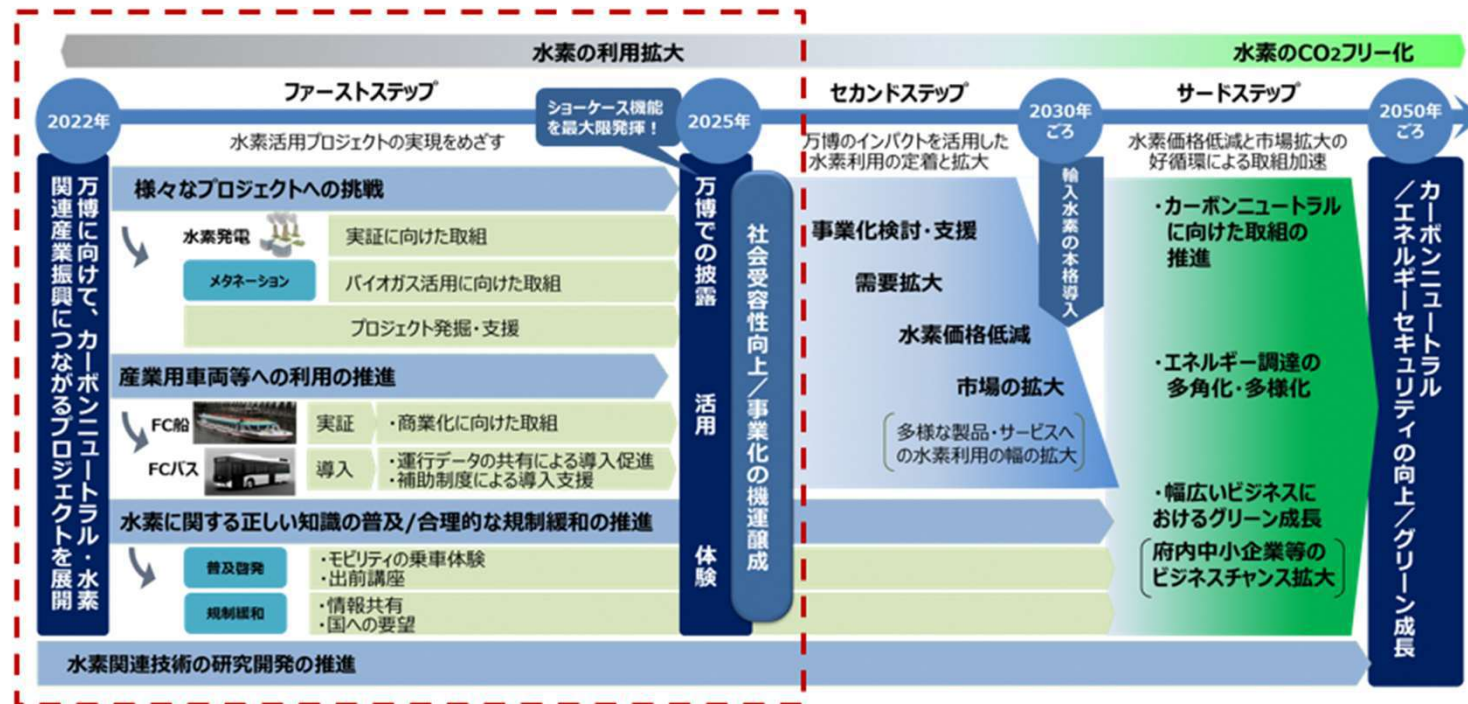
【1】 前回会議の振り返り

【2】 大阪府・大阪市・堺市の取組について

【1】前回会議の振り返り

第19回会議資料抜粋

- 「未来社会の実験場」をコンセプトとする2025年大阪・関西万博において、水素に関する最先端の技術を披露し、将来の水素社会の姿を見せることが、水素需要拡大の転機になるものと考え、「H2Osakaビジョン」でもファーストステップとして位置づけ、取組を進めてきた。
- 万博閉幕というこのタイミングにあわせて、大阪・関西万博での取組・成果をとりまとめることで、ファーストステップの振り返りを行う。



➡ ファーストステップの振り返りとして、万博での取組・成果をとりまとめる

【1】前回会議の振り返り

第19回会議資料抜粋

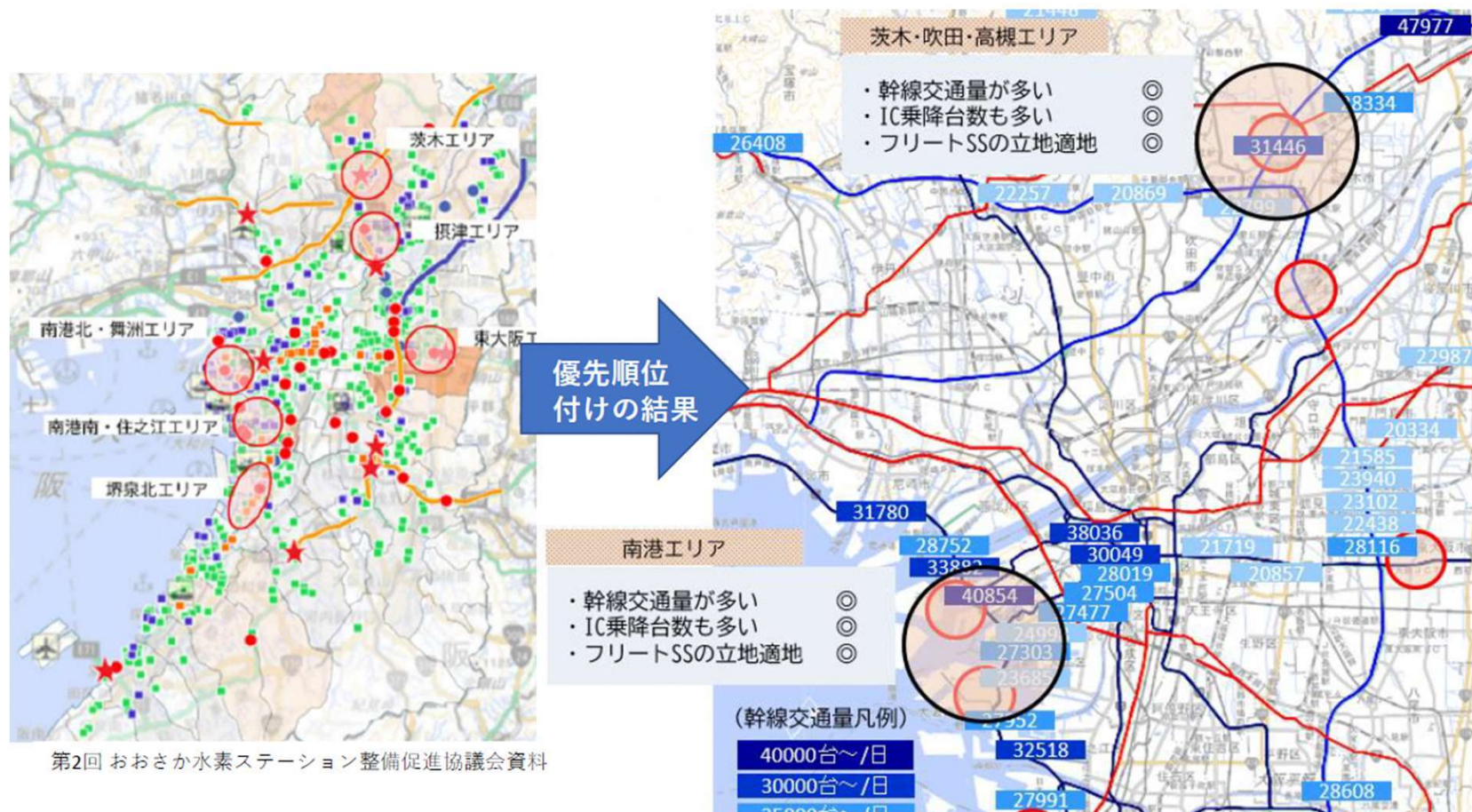
推進会議の今後の進め方について

- 今年度は、「H2Osakaビジョン」でマイルストーンに位置付けられている大阪・関西万博が開催され、会場内外で水素を活用したプロジェクトの実証が行われた。10月13日をもって万博が閉幕し、いよいよ「H2Osakaビジョン」でセカンドステップにあたる時期を迎えたところ。
- セカンドステップでの取組を具体化していくにあたり、各社の水素関連分野の取組の今後の方向性について、アンケートを実施。アンケートの回答をもとに事務局にてセカンドステップの方向性（案）を作成する。

令和8年1月に構成団体のみなさまにアンケートを実施
取りまとめ結果、セカンドステップの方向性案は議題4で説明

【2】FC商用車の導入拡大に向けた取組

- 令和8年3月23日に第3回「おおさか水素ステーション整備促進協議会」を開催。
- 府域で商用車需要が高い6つのエリアのうち、特に優先的に水素ステーション整備を促進する地域に関して議論を行った結果、「南港エリア」及び「茨木・吹田・高槻エリア」の2つのエリア選定。



出典：第3回「おおさか水素ステーション整備促進協議会資料（令和8年3月23日）」

- 水素ステーション整備の促進には、国の追加的支援の適用と確かな需要の確保が不可欠であり、引き続き、必要な対応を行っていく。
- 国がFC タクシーをFC 商用車に位置付けたことを受けて、今後、タクシー業界にも働きかけを行う。

- 令和7年7月、全国で初めてカーボンニュートラル技術に特化したビジネス化支援を行う拠点機能「CNビジネスベース」を開設。
- オープンイノベーションによるマッチング、コーディネーターによる技術相談等を一体的に行い、コンソーシアムの立ち上げ、企業の共創による新たなビジネスプロジェクトの創出を支援。
- 水素等をテーマとする勉強会等も開催。

事業趣旨・目的

カーボンニュートラル技術に特化してビジネス化に向けた支援を行う拠点機能を通じて、府内企業が参画するビジネス化プロジェクトを創出

拠点概要

拠点名称：CNビジネスベース (Carbon Neutral Business Base)

常設窓口：グラングリーン大阪 JAM BASE 403号 ホームページはこちら↓

ウェブサイト <https://www.cnbb.jp/>

主 催：大阪府

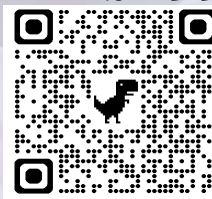
運 営：CNビジネスベース事務局

メール：contact@cnbb.jp 電話：06-6131-4863

窓口対応時間：月曜日～金曜日 午前10時～午後4時

対応内容：・チームビルディングの促進による
コンソーシアムの立ち上げ支援
・コーディネーターによるビジネス化相談 等

対 象：カーボンニュートラル技術を有する企業
製品化・用途開発を行う企業
実装先となる企業等



活動実績 (令和7年7月～令和8年1月23日)

- ・キックオフセミナー（ノーベル賞受賞者吉野彰博士講演）
- ・大企業とのオープンマッチングイベント
- ・万博で披露されたCN技術のピッチイベント
- ・大学が有する先進技術シーズと企業マッチングイベント
- ・ペロブスカイト太陽電池やバイオエコノミー等の勉強会
- ・CN技術のビジネス化に活用できる補助金の説明会
- ・東南アジアでの新たなビジネス創出セミナー
- ・CN技術のイノベーション交流会（水素企業ご登壇）
- ・水素・アンモニア ビジネス勉強会
～水素・アンモニア“実装”のこれから～

などをこれまで計22回開催！

活動内容

テーマ別勉強会（水素等、ペロブスカイト太陽電池、蓄電池、バイオエコノミーなど）

CN技術イノベーション交流会、東南アジア展開ワークショップ

補助金説明会企業等のニーズに応じたビジネス化サポート

【2】 大阪市の取組について～普及啓発の推進～

大阪市

目的

- ・小中学校や地域イベントにおける機会を捉え、CNに向けた水素の活用について教育、啓発を推進
- ・公用車として導入したFCVを様々な場面で活用し、水素エネルギーの活用を身近に感じる機会を提供
- ・実証事業等を通じ、新たな水素利活用技術の社会実装に向けた取組を推進

概要

普及啓発に向けた取組み

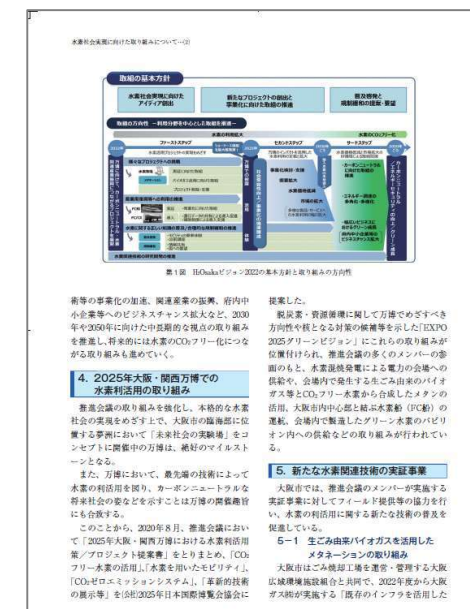
- ・大阪市内にあるごみ焼却工場が実施するオープンデーや区民祭りに出展
R6年度11件、R7年度10件
- ・環境学習のための学習教材、「おおさか環境科」を作成し、市内小中学校の授業でも活用。
- ・エネルギー学会誌「えねるみくす」や日本興業出版社「配管技術」等への寄稿

イベントでの啓発取組

水素ロケットキットによる実験コーナーを通じて、水素を身近に感じてもらう



FCV公用車「MIRAI」を展示して給電デモを実施



学会誌等への寄稿

大阪市における取組に加えて
H2Osakaビジョンの取組も紹介。

【2】 大阪市の取組について～新たな脱炭素の施策について～

大阪市

新たな脱炭素施策「ネクストグリーンプロジェクト」について

- 新たな地球温暖化対策実行計画【区域施策編】(R7年度末策定予定)において、2030年度の目標（2013年度比GHG50%削減）のための追加的施策、「ネクストグリーンプロジェクト(NGP)」を2026年度より5年間、年次計画的に実施していくこととしている。（環境創造基金を活用）
- NGPでは、「次世代モビリティ普及拡大事業」を取組の柱に位置づけ、FC商用車、水素ステーション整備に対する補助を実施していくこととしている。

事業名	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
①省エネ促進事業	中小企業の省エネ・省CO2加速化支援事業				
	住宅の脱炭素化促進事業				
②創エネ普及拡大事業	「地域脱炭素化促進事業」制度の運用				
	新たな手法による太陽光発電導入支援事業				
	ヘロブスカイト太陽電池導入促進事業				
	帯水層蓄熱システム導入支援事業				
③次世代モビリティ普及拡大事業	制度設計	FC商用車導入補助事業			
		制度設計		水素ステーション整備補助事業	
				CEV導入補助事業	
④行動変革促進事業	脱炭素化普及啓発促進事業・環境学習事業				
	制度設計	市内における貴重な緑地保全への支援事業			

・補助対象や補助内容については、今後の情勢も踏まえて決定

【2】 堺市の取組について

エネルギー関連施策の推進に係る連携協定を締結

目 的

堺市は、ゼロエミッション車（ZEV）を中心とした電動車の普及や水素エネルギーの利活用に向けた取組を進め、カーボンニュートラルの実現をめざした環境先進都市の構築を図るため、在堺トヨタ各社と、エネルギー関連施策の推進に係る連携協定を締結しました。

概 要

【 連携協定に基づく取組事項 】

- ◆ ZEVを中心とした電動車の普及に関する事項
- ◆ 水素エネルギーの利活用に関する事項
- ◆ その他本協定の目的に沿う事項

【 連携協定締結式 】

- ◆ 実施日程 2022年1月7日（金）
- ◆ 出席者 在堺トヨタ6社 代表
堺市長



締結式の様子



連携協定イベント

【 協定に基づく取組 】 FCV活用モデル創出プロジェクト

未来を動かせ。カーボンニュートラルアクション！
究極のクリーン移動電源車・発電時CO₂排出ゼロ

**燃料電池自動車
活用モデル創出プロジェクト
モニター募集!!**

公募期間 2022年1月31日まで 対象期間 2022年4月1日～6月30日
募集 堺市内に所在する法人格を有する団体

水素エネルギーの利活用に向けた官民連携アクション

燃料電池自動車（FCV）は、水素と酸素を化学反応させて発電するクリーンな移動電源車です。発電時にCO₂を排出せず、静粛性も優れています。また、水素を貯蔵できるため、長時間の走行が可能です。本プロジェクトでは、FCVの活用モデルを創出するために、モニターを募集しています。モニターには、アンケートなどにご協力いただきます。

モニター募集
本プロジェクトは、下記条件を満たす法人が対象となります。なお、応募多数の場合は、ご希望に添えないことがあります。

- 堺市内に所在する法人格を有する団体であること
- アンケート調査や、必要に応じて実証するにアリテに協力すること
- モニターに関する車両データの提供、および可能な範囲で取材や写真撮影について同意すること
- モニター業務にあたっては、別途「燃料電池自動車活用モデル創出プロジェクト利用規約」に同意すること
- 費用は、事務局が負担しますが、必要経費は別途必要です。その他社会的組織に属していないこと

募集要項
本プロジェクトへの参加申込から実施までの流れは次のとおりです。

申込 → 申込書へご返信 → 必要書類提出 → 必要書類提出 → モニターへご返信 → 実施

モニター業務
トヨタ自動車「MIRA」(ミライ) ※2020年モデル。車両の色やグレードは選べません。

費用
● モニター車両：無償 ● 燃料費：車両完満分は無償（水素充填が必要な場合は各自負担）

お問い合わせ先：堺市 環境局 環境推進課 環境エネルギー課 ☎072-228-7548

エネルギー推進協定に基づき、カーボンニュートラル実現に向けて連携して取り組んでいます。

堺市 × OSAKA ALL TOYOTA

官民一体でFCVの移動電源車
としての新たな価値創出を図る

【2】 堺市の取組について

堺市電気自動車等導入支援事業補助金

目的

環境性能に特に優れた自動車（ゼロエミッション車）を導入した場合及び電気自動車等の充電設備を導入した場合において、導入に要した費用の一部を補助することにより、EV・FCVの普及を促進し、温室効果ガス排出量を削減することを目的とする。

概要

補助対象：EV、FCV 【令和7年度】

補助金額：EV → 4万円／台、FCV → 20万円／台

補助実績[R6年度]：クラウンFCV



【2】 堺市の取組について

中小企業をピンポイントに訴求！

概要

- ☆省エネ設備への更新を支援した中小企業を中心に、社用車や社長車をターゲット！
- ☆国や市に係るFCV補助金や税制優遇措置を含むトータルコストについて訴求！

チラシ・表

高価格な印象の**FCV**、
今なら**HV**より**お得**かも！



同車種でHV・FCVの費用を比較してみました！

※自動車環境割はどちらも非課税です。

	HV	FCV
メーカー希望小売価格（消費税抜）※1	730万円	830万円
令和6年度 国補助金※2	なし	136万3千円
令和6年度 堺市補助金	なし	20万円
エコカー減税 ※1 （2024年1月1日～2025年4月30日の新規登録車）	37,500円	30,000円
グリーン化特例 ※1 （購入翌年度の自動車税の軽減措置は 2026年3月31日までの新規登録車が対象）	なし	18,500円
優遇額控除後の価格	7,262,500円	6,688,500円
燃料価格（5000km走行時） （ハイオク価格を195円/L、水素価格を1,650円/kgとして算出）	54,250円	55,743円

＼ 究極のエコカー！ ／

チラシ・裏

＼ CO2排出量0！ ／ ＼ なめらかな加速！ ／ ＼ 静かな走行！ ／
ゼロエミッション車を検討してみませんか？

バッテリーへ充電、電気です走る！
EV
(電気自動車)
充電設備があれば自宅充電可能！
車種も徐々に増加中！
※2024年3～5月で充電OKの車種が20台以上あり、今後も増加中！

水素と酸素を化学反応させて発電
FCV
(燃料電池自動車)
※20万円以上の補助金が適用される！
・非常時には蓄電池に！
・充電設備があれば自宅充電可能！
・車種も徐々に増加中！
・非常時には蓄電池に！
・短時間の燃料充電で長距離走行！
・走行中に排出するのは水のみ！

堺市の水素ステーションはこちら！

- 所在地 1 大阪府堺市東区東山1-150-1
- 電話番号 070-2900-4375
- 営業時間 9:00～17:00
- 営業日 水曜日（定休）



※1 国土交通省の定める「新車種」に該当する車種に限ります。
※2 国土交通省の定める「新車種」に該当する車種に限ります。
※3 FCVは車検時に水素タンクの法定点検に必要な費用が追加で発生します。

堺市

【2】 堺市の取組について

オールZEH街区

概要

市営住宅跡地を民間事業者に売却し、新たなオールZEH街区を開発中。街区中の97戸全戸に太陽光発電やエネファーム等を標準搭載。ZEHの補助を通じて、エネファームの導入支援を実施。

97戸全戸『ZEH+』、敷地面積120m²以上、木造2階建(在来工法)、3LDK~4LDK、 U_A 値=0.5W/m²・K以下、オール樹脂サッシ Low-E複層ガラス、BEI=0.75以下、LED照明、高効率エアコン、燃料電池コージェネレーションシステム、太陽光発電システム、EV用充電設備、HEMS、宅配ボックス、長期優良住宅の認定 等



【HEMS】



【太陽光パネル】



【エネファーム】